

平成30年度第1回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校および社会教育関係者、家庭向上向上関係者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べることができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 平成30年7月24日（火） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中8名出席 美術館職員5名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 大石朋生（副会長）、小野田倫久、鎌田優子、佐藤 保（会長）、新居由紀子、星 秀隆、本間公浩、舛田諭希（50音順敬称略）
- 5 議 事 (1) 平成29年度事業実施状況について
(2) 平成29年度道立美術館評価について
(3) 平成30年度事業運営計画について
(4) その他（「アートギャラリー北海道」について）

◎議事録（抄）

議事に入る前に、委員紹介、美術館職員紹介、館長挨拶を行い、その後、協議会の会長・副会長を選出。会長に佐藤（保）委員、副会長に大石委員を決定。

旭川美術館の概要と協議会の位置づけについて説明した後、会長の司会進行により議事に入る。

<議事についての意見等>

* 事務局より平成29年度の展覧会等の実施状況、平成30年度の事業予定等を説明（展覧会、教育普及活動については映像でも紹介）するとともに、平成29年度の当館の美術館評価結果を報告。

旭川美術館の活性化や地域の文化振興の発展という観点から美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて意見等を頂く。

● 北海道では観光に力を入れているが、観光を所管する部署とのつながりはあるのか。

【事務局回答】⇒ 適宜関係部署と連絡を取りながら取り組みを進めているが、まだまだ足りない部分もあるので、今後さらに連携を図っていきたい。

● 北海道で受け入れる外国人が、道内の美術館に来られるような誘致の仕方についても、観光を所管する部署と連携を図っているのか。

【事務局回答】⇒ 当然考えなければならないという認識であり、関係部署とのタイアップを今後検討していきたい。

- 以前は日本人ばかりであったが、ここ3~4年、中国人や英語圏のお客様がかなり来館している。英語表示や中国語表示がないので、外国人にもわかりやすくしたら良いのではないか。
- 外国人が来館した際、スマートフォンを活用した外国語の説明があったりするのも良いのではないか。
- 旭川美術館のいろいろな取組を見せていただいているが、いろいろと努力し改善されてきている。これまでも、観光と関連して何かできないかという意見もあり、表示の問題等について改善されている。
- 所蔵品展だと、旭川にあるものだから見なくても良いと思われてしまっているが、旭川美術館に来たらこの作品を見られるのだというメインの常設展があってもいいのではないか。どんどん見ていただけるような形づくりも必要かと思う。
- 観光との関係でいうと、観光客は地方の美術館に対して、その地方色があるというのを求めるのかと思うので、地方の美術館の個性というものも大事かと思う。
- 所蔵されている作品は他の美術館に貸したりできるのか。

【事務局回答】⇒ 他の美術館への貸し出しは可能であり、また、旭川美術館の所蔵品展をやりたいという美術館があれば喜んで貸し出す。

- 工作コーナーがある展示の時は、低学年の子どもたちも充実して飽きることなく美術館を堪能できる。
- 美術館から遠い学校は、かなりの時間や費用がかかり、美術館を利用することが難しい面もあると思われ、残念である。
- 文化に触れていくという点では、先生方、子どもに限らず大人もなるべく来て、触れて、見て、そして子どもと一緒にまた行くという状態になったりするといいのではないか。
- 美術館で様々な活動をされていることをあまり知らなかった。もっと知る機会を増やしていくと良いのではないか。
- 来館者は、専門家ではなく、作品の鑑賞プラスミュージアムショップに行ったり、喫茶で飲んだりといった文化自体を楽しんでいる自分に喜びを見いだしているのかもしれない。
- 子どもの頃は絵を描いたり、絵を見て楽しむことはあるものの、継続的に生涯ずっと美術に親しむということがなかなかうまくいっていないのは、中高生あたりに問題があるのではと感じているので、中高生あるいは大学生を対象とした公募展のようなものももっとあると興味が持続するのではないか。